

業種の動きにバラつきがあるものの全体的には景気は悪化!

— 2015年10月～12月期 中小企業景況調査報告書概要 —

日銀が昨年(2014年)の12月14日に発表した12月の企業短期経済観測調査(短観)によると、企業の景況感を示す業況判断指数(D・I)は、大企業・製造業で前回9月調査(プラス12)から横ばいのプラス12となっている。原油や鉄鉱石などの原材料安を背景に「化学」、「鉄鋼」などが改善したが、中国など新興国の減速の影響から輸出割合の高い「電気機械」、「自動車」などが悪化している。大企業・非製造業はプラス25と前回(プラス25)と横ばいになっている。訪日外国人のインバウンド消費拡大を背景に「宿泊・飲食サービス」が改善し、「不動産」、「物品賃貸」が悪化した。中小企業・製造業は±0となり2期連続で横ばいとなっている。非製造業は9月調査(プラス3)から2ポイント改善してプラス5となっている。

3か月後の先行きの見通し(本年3月予測)は、大企業・製造業がプラス7と今期より5ポイント悪化、大企業・非製造業はプラス18と7ポイントの悪化と予測。中小企業においては、製造業が4ポイント悪化しマイナス4、非製造業は5ポイント悪化し±0となっている。新興国経済の先行き不透明感を背景に製造業はもとより、観光関連など非製造業も悪化を予想している。

内閣府が1月20日に発表した1月の月例経済報告においては、国内景気の基調判断を「一部に弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている」として、3か月連続で維持した。個別項目のうち「生産」を前月までの「弱含んでいる」から10か月ぶ

りに「横ばい」に引き上げている。景気の先行きについては、「金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある」と記し、年明けからの株安・円高に警戒感を示している。

商工会地域の景況調査においては、今期(2015年10月～12月)の業況に関するD・I値は、前期との比較でサービス業がマイナス25.9から13.0ポイントと大幅に改善しマイナス12.9になり、小売業も5.6ポイント改善しマイナス33.4となっている。小売業は3期連続で改善している。反対に、製造業は9.1ポイント悪化しマイナス25.8、建設業においては13.6ポイント悪化しマイナス40.9となっている。

来期(2016年1月～3月期)の業況予測については、今期のD・I値が最も悪かった建設業のみが9.1ポイント改善しマイナス31.8と予想しているが、小売業は横ばい、製造業は5.2ポイント悪化、サービス業も7.1ポイント悪化と予測している。

今期の商工会地域の景況感は、業種によって動きに違いがあるが傾向としては悪化の度合いが強くなっている。日銀短観や月例経済報告と同じような動向であるが、それよりも悪化の度合いは強くなっていると思われる。厳しい環境が続く中、国や県の経済政策等が功を奏して商工会地域での景気が回復傾向になることを期待する。

(中小企業診断士 橋本大輔)

業界天気動向図

項目	売上				採算(経常利益)				資金繰り			
	1H 5/27 3年	4 5 6月	7 8 9月	10 11 12月	1H 5/27 3年	4 5 6月	7 8 9月	10 11 12月	1H 5/27 3年	4 5 6月	7 8 9月	10 11 12月
製造業												
建設業												
小売業												
サービス業												

各項目については次により表示した。

区分	増加 好転	やや増加 やや好転	横ばい	やや減少 やや悪化	減少 悪化	大幅に減少 非常に悪化
	D/I値(前年同期比)	20.1～	5.1～20.0	5.0～△5.0	△5.1～△20.0	△20.1～△35.0
表示	快晴	晴れ	曇り	小雨	雨	豪雨

今期直面している経営上の問題点需要の停滞

(数値の左は前期構成比、右は当期割合を%で記す)

製造業		1位		2位		3位	
1位にあげる問題点	需要の停滞	生産設備の不足・老朽化、製品(加工)単価の低下、上昇難		大企業の進出による競争の激化、製品ニーズの変化、原材料価格の上昇、熟練技術者の確保難等			
前期	13.8	17.9	—	10.7	—	7.1	
今期	17.9	—	10.7	—	7.1		
建設業		1位		2位		3位	
1位にあげる問題点	請負単価の低下、上昇難、取引条件の悪化、従業員の確保難、官公需要の停滞	材料価格の上昇、事業資金の借入難、熟練技術者の確保難、民間需要の停滞					
前期	—	14.3	—	9.5			
今期	—	14.3	—	9.5			
小売業		1位		2位		3位	
1位にあげる問題点	買力の他地域への流出	大型店・中型店の進出による競争の激化	需要の停滞	消費者ニーズの変化、店舗の狭隘・老朽化、従業員の確保難			
前期	19.5	23.1	19.5	17.9	19.5	15.4	7.7
今期	23.1	17.9	15.4	7.7			
サービス業		1位		2位		3位	
1位にあげる問題点	利用者ニーズの変化、需要の停滞	材料等仕入単価の増加、従業員の確保難	人件費以外の経費の増				
前期	—	18.0	14.6	12.0	8.3	8.0	
今期	—	18.0	14.6	12.0	8.3	8.0	